

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北海道財務局長

【提出日】 2023年8月14日

【四半期会計期間】 第49期第1四半期(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

【会社名】 株式会社進学会ホールディングス

【英訳名】 SHINGAKUKAI HOLDINGS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 平井 将浩

【本店の所在の場所】 北海道札幌市白石区本郷通一丁目北1番15号

【電話番号】 (011)863-5557(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 竹山 正輝

【最寄りの連絡場所】 北海道札幌市白石区本郷通一丁目北1番15号

【電話番号】 (011)863-5557(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 竹山 正輝

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第48期 第1四半期 連結累計期間	第49期 第1四半期 連結累計期間	第48期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	1,686,396	938,443	6,665,487
経常損失() (千円)	414,566	809,739	1,478,381
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失() (千円)	354,053	839,664	1,628,784
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	496,213	833,420	1,653,175
純資産額 (千円)	12,725,028	10,540,270	11,537,579
総資産額 (千円)	30,426,131	17,402,983	19,436,517
1株当たり四半期(当期)純損失金額() (円)	19.47	47.31	90.91
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	41.8	60.6	59.4

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、2023年4月1日付で、当社の連結子会社であった株式会社プログレスは、当社の連結子会社である株式会社進学会を存続会社とする吸収合併により消滅したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期におけるわが国経済は、約3年間にわたり猛威を振るった新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより経済活動が正常化に向かっているものの、ウクライナ情勢の長期化、エネルギー資源の高騰による水道光熱費の上昇、また日本国内における物価高騰など、依然先行きが不透明な状態が続いております。

当社グループの主たる部門である教育関連業界におきましては、少子化や将来的な収入不安定等による個人消費の抑制など厳しい環境に直面しており、それらに対応できる施策が必要となってきております。また、教育に関する情勢の変化に対応できるサービスの開発・質の向上が今後ますます求められていくものと認識しております。

このような環境のもと当社グループが今後の更なる成長を実現していくために、提携各社との一層のアライアンスの強化を行い、指導法や教材開発、募集活動等のノウハウの共有を図るとともに、全国の直営会場体制に関しては採算性の重視とスピード感のあるスクラップ&ビルドにより、質と量の両面において教室網の強化を進めております。また全塾生へタブレット端末を貸与し、自社開発のコンピュータ用学習ソフトの塾内利用ならびにオンライン授業ができる環境を整備し、日本全国どこでも受講可能なAIオンライン塾Go・KaKuを2021年に開講し、さらなる顧客獲得をめざしております。

当第1四半期の当社グループの運営につきましては、教育関連部門における個別指導の全国展開やAIオンライン塾Go・KaKuを組み合わせた商品の開発など、売上増加施策に取り組んでまいりました。しかしながら、新年度生集客の重要期である春の募集において前年を上回る募集があったものの、コロナ過において多くの不採算会場を閉じた影響で売上において計画を下回る結果となりました。また、資金運用事業である株式会社SG総研の売上高は、324百万円（前年は1,070百万円）となりました。

その結果、当第1四半期の売上高は938百万円（前年同四半期比44.4%減）、営業損失は株式市場の変動による子会社における有価証券の評価損の発生により846百万円（前年同四半期は439百万円の営業損失）、経常損失につきましては809百万円（前年同四半期は414百万円の経常損失）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は839百万円（前年同四半期は354百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

当第1四半期連結累計期間のセグメント別の概況は、次のとおりであります。

教育関連事業

コロナ過で縮小させた会場数の回復を図るため、積極的な会場のスクラップ&ビルドを進めるとともに、映像配信サービスの充実、採算性の向上に取り組んでおります。また、個別指導部門は全国展開にともない生徒数・売上高ともに前年を上回っておりますが、受講率の伸び悩みから受講単価が予算を下回る状況で推移しました。この結果、売上高は300百万円（前年同四半期比2.1%増）となり、149百万円のセグメント損失（前年同四半期は146百万円のセグメント損失）となりました。

スポーツ事業

道内4ヶ所に施設を構えるスポーツクラブZipは、昨年と比べ新規生の募集・入会ともに回復の兆しが見えてきましたが、募集が目標までの水準に届かず、売上高は86百万円（前年同四半期比3.0%減）となり、セグメント損失は8百万円（前年同四半期は7百万円のセグメント損失）となりました。

賃貸事業

賃貸不動産や学習塾部門の教室の管理・清掃に関わる賃貸事業は、売上高は138百万円（前年同四半期比1.6%

減)となり、セグメント利益は55百万円(前年同四半期比9.8%減)となりました。

資金運用事業

資金運用会社である株式会社SG総研の当第1四半期の売上高は324百万円(前年同四半期比69.6%減)となり、セグメント損失は676百万円(前年同四半期は244百万円のセグメント損失)となりました。

その他

本セグメントは報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教材の印刷や備品・消耗品の仕入れ販売などを含んでいます。当第1四半期の売上高は88百万円(前年同四半期比4.5%減)となり、セグメント利益は17百万円(前年同四半期比22.2%減)となりました。

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は6,074百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,988百万円減少しました。これは主に有価証券が642百万円、未収入金が1,093百万円減少したことによるものです。固定資産は11,328百万円となり、前連結会計年度末に比べて45百万円減少しました。

この結果、総資産は17,402百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,033百万円減少しました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、6,571百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,038百万円減少しました。これは主に未払金が958百万円減少したことによるものです。固定負債を含めて負債合計は6,862百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,036百万円減少しました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、10,540百万円となり、前連結会計年度末に比べて997百万円減少しました。この結果、自己資本比率は60.6%(前連結会計年度末は59.4%)となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間において特記すべき事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	47,600,000
計	47,600,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年8月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,031,000	20,031,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株であり ます。
計	20,031,000	20,031,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年6月30日		20,031,000		3,984,100		3,344,000

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,282,400		権利内容に何ら限定のない、 当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,739,300	177,393	同上
単元未満株式(注)	普通株式 9,300		同上
発行済株式総数	20,031,000		
総株主の議決権		177,393	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式46株が含まれております。

【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社進学会ホール ディングス	札幌市白石区本郷通一丁 目北1番15号	2,282,400		2,282,400	11.4
計		2,282,400		2,282,400	11.4

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人銀河による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,474,172	4,226,048
受取手形及び営業未収入金	128,699	50,273
有価証券	2,040,566	1,398,025
商品及び製品	6,495	6,039
原材料及び貯蔵品	20,500	18,144
未収入金	1,132,249	39,127
その他	260,815	337,773
貸倒引当金	1,265	1,265
流動資産合計	8,062,235	6,074,167
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,702,211	13,700,349
減価償却累計額	7,635,615	7,686,170
建物及び構築物(純額)	6,066,596	6,014,178
機械装置及び運搬具	571,921	571,921
減価償却累計額	546,914	548,561
機械装置及び運搬具(純額)	25,007	23,359
土地	4,122,438	4,122,438
その他	936,328	931,606
減価償却累計額	907,319	904,401
その他(純額)	29,008	27,204
有形固定資産合計	10,243,050	10,187,181
無形固定資産		
その他	17,948	17,516
無形固定資産合計	17,948	17,516
投資その他の資産		
投資有価証券	611,714	615,045
繰延税金資産	7,883	3,084
敷金及び保証金	137,620	149,153
退職給付に係る資産	280,733	281,536
その他	75,331	75,296
投資その他の資産合計	1,113,282	1,124,117
固定資産合計	11,374,281	11,328,815
資産合計	19,436,517	17,402,983

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	136,310	51,401
短期借入金	5,904,267	5,997,620
未払金	1,198,274	239,734
未払法人税等	159,800	19,700
未払費用	62,894	51,683
前受金	138,005	169,427
その他	10,158	41,921
流動負債合計	7,609,711	6,571,489
固定負債		
繰延税金負債	55,942	53,234
役員退職慰労引当金	76,302	78,554
資産除去債務	114,814	117,620
預り敷金保証金	42,167	41,812
固定負債合計	289,226	291,223
負債合計	7,898,937	6,862,712
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,984,100	3,984,100
資本剰余金	3,344,000	3,344,000
利益剰余金	5,448,928	4,445,374
自己株式	1,022,590	1,022,590
株主資本合計	11,754,437	10,750,883
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	269,873	258,527
退職給付に係る調整累計額	53,016	47,914
その他の包括利益累計額合計	216,857	210,613
純資産合計	11,537,579	10,540,270
負債純資産合計	19,436,517	17,402,983

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
売上高	1,686,396	938,443
売上原価	1,890,895	1,572,261
売上総損失()	204,499	633,818
販売費及び一般管理費	234,868	213,093
営業損失()	439,367	846,911
営業外収益		
受取利息	4,025	28,326
受取配当金	14,379	9,176
その他	7,984	3,853
営業外収益合計	26,389	41,357
営業外費用		
支払利息	498	3,890
その他	1,089	294
営業外費用合計	1,588	4,185
経常損失()	414,566	809,739
特別利益		
投資有価証券売却益	-	425
投資有価証券償還益	158,760	-
特別利益合計	158,760	425
特別損失		
固定資産除却損	1,073	351
投資有価証券売却損	19,426	-
特別損失合計	20,500	351
税金等調整前四半期純損失()	276,306	809,664
法人税等	77,747	29,999
四半期純損失()	354,053	839,664
親会社株主に帰属する四半期純損失()	354,053	839,664

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失()	354,053	839,664
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	139,960	11,346
退職給付に係る調整額	2,199	5,101
その他の包括利益合計	142,159	6,244
四半期包括利益	496,213	833,420
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	496,213	833,420
非支配株主に係る四半期包括利益		

【注記事項】

(連結の範囲の変更)

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

2023年4月1日付で、当社の連結子会社であった株式会社プログレスは、当社の連結子会社である株式会社進学会を存続会社とする吸収合併により消滅したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 当社グループは、教育関連事業における月々の継続授業の月謝と、7月・12月・3月に始まる特別講習会の収入が主な収益源となっております。売上及び売上総利益は、講習会の売上が計上されることなどから、年度末に向けて漸増する一方、費用面においては人件費・広告宣伝費・地代家賃などが売上の多寡に関わらず、各四半期連結会計期間を通じて発生するために、営業利益などは年度末に向けて増加していく構造となっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
減価償却費	64,195千円	60,861千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	275,229	15.0	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	133,114	7.5	2023年3月31日	2023年6月30日	利益剰余金

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

連結子会社の吸収合併

(1) 取引の概要

結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合企業の名称 株式会社進学会

事業の内容 教育関連事業、スポーツクラブの経営

被結合企業の名称 株式会社プログレス

事業の内容 個別指導

企業結合日

2023年4月1日

企業結合の法的形式

当社の連結子会社である株式会社進学会を存続会社とする吸収合併方式で、株式会社プログレスは消滅しております。

結合後企業の名称

株式会社進学会

その他取引の概要に関する事項

集団授業を運営する株式会社進学会と個別指導を運営する株式会社プログレスが指導面や成績管理に関する運営上の効率化を図り、収益の安定化を図ります。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下との取引として処理しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	教育関連 事業	スポーツ 事業	賃貸事業	資金運用 事業	計				
売上高									
顧客との契約 から生じる収益	294,633	88,725	2,118		385,477	92,461	477,939		477,939
その他の収益			138,434	1,070,022	1,208,457		1,208,457		1,208,457
外部顧客への 売上高	294,633	88,725	140,553	1,070,022	1,593,934	92,461	1,686,396		1,686,396
セグメント間 の内部売上高又 は振替高			59,393		59,393	41,752	101,146	101,146	
計	294,633	88,725	199,947	1,070,022	1,653,328	134,214	1,787,542	101,146	1,686,396
セグメント利益 又は損失()	146,827	7,358	62,055	244,521	336,652	21,914	314,738	124,629	439,367

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教材の印刷や備品・消耗品の仕入販売等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、主に各グループ会社への経営指導料、報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用、及びセグメント間の取引の消去額であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	教育関連 事業	スポーツ 事業	賃貸事業	資金運用 事業	計				
売上高									
顧客との契約 から生じる収益	300,909	86,047	2,123		389,080	88,274	477,354		477,354
その他の収益			136,219	324,869	461,089		461,089		461,089
外部顧客への 売上高	300,909	86,047	138,343	324,869	850,169	88,274	938,443		938,443
セグメント間 の内部売上高又 は振替高		2,208	55,782		57,991	42,660	100,651	100,651	
計	300,909	88,255	194,126	324,869	908,160	130,934	1,039,094	100,651	938,443
セグメント利益 又は損失()	149,883	8,980	55,963	676,735	779,635	17,055	762,579	84,331	846,911

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教材の印刷や備品・消耗品の仕入販売等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、主に各グループ会社への経営指導料、報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用、及びセグメント間の取引の消去額であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	19円47銭	47円31銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	354,053	839,664
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額 ()(千円)	354,053	839,664
普通株式の期中平均株式数(株)	18,180,489	17,748,554

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年 8月14日

株式会社進学会ホールディングス

取締役会 御中

監査法人 銀河

北海道事務所

代表社員
業務執行社員

公認会計士 木下 均

業務執行社員

公認会計士 櫻井 一 俊

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社進学会ホールディングスの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社進学会ホールディングス及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正

妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。

監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監査及び実施に関して責任がある。監査法人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。